

令和2年度 第19回 政策推進会議報告

日 時 3月11日 9時30分～10時30分

場 所 WEB会議室

出席者 18人

1 令和2年度における男女共同参画施策について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) サポートブックについては、これから具体的な研修等が予定されていると思う。ただ、やはり全員参加というのは難しいかもしれないので、配布されたら、受け取って終わりではなく、それぞれの現場で工夫してぜひ活用をお願いしたい。今回、市民用・職員用と分けて作成しているが、人権文化いきづくまちづくり計画を審議会で議論いただくにあたって、やはりパブリックに関わる、特に公権力を預かっている市職員の意識を常に高めていくことの重要性ということを強く指摘されており、そういった自覚のもとに、ぜひ職員用を浸透させていきたいと思う。
 - ・(市長) 市民意識調査は、来年度に改定作業が予定されている次期総合計画の下地になるものとして、5年に1回行っているものである。今回の結果の分析を踏まえて次期計画の重点的なポイントを皆で共有していくということになるが、やはり局跨ぎになっていくと思うので、それぞれの局でまた分析的な視点でご覧いただきたい。
 - ・(市長) 今回は、男女共同参画推進会議ではなく政策推進会議の中の報告事項としているが、今後の見通しはどうか。
- 改めて来年度に男女共同参画推進会議は開催させていただくが、審議会から今回ご指摘を受けた個別項目については、教育委員会や健康福祉局と個別に協議させていただきたいと思う。
- ・(市長) まず、取組が進んだところについては今回たくさん評価事項として記載していただいているので、今後も引き続き頑張っていこう。一方で、デートDV等の啓発を学校現場でどれだけやっていけるかということについては、実は以前から複数回にわたってご指摘を受け続けている。学校現場では、総合学習や外部講師を呼んでの取組が、例えば防災や環境など多岐に渡るため、非常に時間の奪い合いになっており、教育委員会ともその辺りを整理していこうという問題意識を共有している。第一弾としては、環境学習が理科の本体でもそれなりの時間が割り当てられ、かつ総合学習等でも取り組む必要があるということで、整理させていただき、本年度に新しい副読本が完成した。ゴミやCO2等の様々な問題についてパッケージ化してコンパクトなものにまとめたので、尼崎市独自の環境学習プログラムが来年度から実施されると思う。まだ残るテーマはたくさんあるが、性教育や性の多様性という分野は、各家庭の保護者の間でも価値観が幅広いところでもあり、学校現場だけでそういった色々な状況に対応せよというのは気の毒かなと思うし、やはり市が全体の舵取りをしてしっかりリードしていく形でやっていかないと浸透させられないのではないかという問題意識を持っている。実際、デートDVの講座を実施してくれる学校は固定化してしまっていて、中々他に広がらないという現状があると思うので、その辺りは全体的な見直しを進める中で協議させていただきたい。

- ・(市長) この時期からまた施策評価の作業が始まっていくと思うが、当然、人権やこういった男女共同参画の分野は、局跨ぎで評価を行う必要がある。そして、その施策評価で確認したことを次年度の取組において見直し、反映させていくということになるので、そういうスケジュールの中で、改めて男女共同参画推進会議を開催したいと思っている。今日の報告事項は施策評価を既に終えた年度の取組になるが、来年度は報告のタイミングを是正していきたいと思っているので、皆さんその心づもりでよろしく願います。
- ・令和元年度実施状況調査報告の指摘事項のうち「尼崎市要保護児童対策地域協議会の実施」のところで、南北保健福祉センターとの連携強化についての記述があるが、令和元年10月にいくしあがオープンし、いくしあ総合相談窓口市民から寄せられる相談内容を検証すると、子育ての相談、発達相談、不登校の相談がその多くを占めており、児童ケースワーカーが対応する虐待相談については、そのほとんどが関係機関から寄せられているという状況にある。そこで、令和3年度については、特定の児童ケースワーカーを南北の保健福祉センターに常時配置・派遣することでサテライト機能を強化し、支援業務の効率化や保健福祉の情報の連携強化、それから学校・園との迅速な連携、地域資源の積極的な活用を図っていきたいと思っている。いくしあでは当然ながら児童のSVやケースワーカーを配置していくので、バランスを取りながら、これまで同様にいくしあ内の連携や南北に派遣している職員との情報の連携を引き続き行いたいと思っている。
- ・(市長) 虐待相談については関係機関からの情報が多いという話だったが、学校現場の方では虐待疑いのケースが少ないということなのか、気になっていくしあに繋ぐということがまだ浸透していないのか、教育委員会の方で実態は把握しているか。
- ・教育委員会では、虐待情報があったらどんな案件でも教育長まで報告するよというお願いをしており、感覚的には1週間に1件から2件くらい、学校で認知をした虐待情報が寄せられている。その情報はいくしあにも報告されているので、虐待については学校からもかなり共有されているという認識を持っている。
- ・学校での虐待情報については、教育委員会事務局のこども教育支援課の方に入ってきたり、その学校園から直接児童ケースワーカーの方に入ってきたりしており、いくしあ総合相談窓口を通さずに直接入ってくるケースが多いということである。
- ・(市長) 承知した。気になる案件ほど児童相談所の方に繋がっている可能性もあるのかなとも思うし、いくしあはまだまだ発展途上である。4月からは県見相もプラザ内に来るので、また連携を密にやっていきたい。

2 (仮称) 尼崎市脱炭素行動宣言－2050年までに脱炭素社会を実現するために－ (素案) に対する市民意見公募手続の実施について

経済環境局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) かなり大きな方針転換を伴う内容になっており、本来は調整会議を入れるべき案件だったという風に認識しているが、先日の代表質疑でも既に答弁をしており、トップダウンで決めてしまったことについて、お詫びとご了承のお願いをしたいと思う。説明にもあったように、2050年のカーボンニュートラルを目指すにあたって、中間である2030年の目標として50%削減を目指していこうというのが非常に大きな肝になっている。これについては今まで

も言ってきたと思うが、尼崎市は産業都市とはいえ、削減目標に対して産業部門は成績優秀で、むしろ家庭や事業所を含む民生部門のほうが頑張らないといけない。かつ、尼崎市関連の公共施設が業務系の10%を占めているので、目標を定めてバックカastingで頑張っていくためには、私達市役所も自然エネルギーの導入や省エネについてかなりギアチェンジをした取組が必要だということがあり、今回の方針転換となっている。目標としては概ね50%を目指すという言い方にしているが、実は、単純に現在の公共施設の50%を例えば自然エネルギー系に置き換えるとなると、ざっくりとした試算で電気代が年間約1億円値上がりすることになる。これをいきなり実行するのはかなり難しいので、どういった手法で実現していくのか、この率先垂範のパートについても、改めて時間をとって皆さんと協議したい。しかし、それぐらい意欲的な内容を今出していこうとしているということについて、皆さんにもご理解いただきたいし、やはり残業を徹底的に減らして電気使用量を下げていくなど、かなりの取組が必要だと考えている。あとは、学校の方でも色々ご協力をいただかないといけないと思うので、この宣言の趣旨やなぜそれが必要なのかという学習も含めて、しっかり進めていきたい。よろしく願います。

・これから色々取組が行われるということだが、CO2削減については、先行して各種計画に盛り込んでいる部分もあると思う。例えば、危機管理安全局所管では、自転車のまちづくり推進計画の環境部分に関して、CO2削減が自転車活用の目標になっている。今後、庁内でどのような連携を取っていくのかということをお聞きしたい。また、先行している計画の目標数値等の整合性も図られていくとは思いますが、先般、自転車のまちづくり推進計画について、委員会の協議会案件としたときに、特にCO2の削減については、市民にわかりやすく、もう少し具体的に行動できるような数値で示してほしいというご意見もあったので、参考にしていただく中で連携していただければと思う。

→宣言から何をしていくかということはまだ白紙で、これから調整していくことになるが、環境保全推進会議等の場で各局との調整をさせていただきたいと思っている。また、今まで計画等を出してきた数値もかなり見直さないといけないと思うが、今取り組んでいただいているような、例えば電気を自然エネルギーにしたり、車を自転車に変えたりということは全て活かしていけるのではないかと考えている。

・2030年の排出量を2013年比で50%削減するということが、産業部門や家庭民生部門等の区分で、削減の目標値を再度割当てし直すことになるのか。

→恐らくそうなると思う。

・事業所としての尼崎市役所でどれぐらい削減するという目標も別途定めるのか。

→そうである。

・市が率先して実施する取組が書かれているが、2030年に2013年比で50%削減するにあたって、どういう手法・スケジュールで削減していくという計画はいつまでに策定するのか。

→未定である。国においても、先日そういったものを11月の国際会議までにまとめていくということをお大臣が発言したところであり、それが公表されるスケジュールとも関連すると思う。ただ、精緻な数字を出すのは少し先になると思うが、約50%の削減というところは動かないので、それに向けて取り組める項目については今から精査していこうと思っている。しかし、先ほど市長がおっしゃったように、今までと同じやり方では恐らくこんな数字は出せないと思うので、かなり抜本的な見直しが必要となる。また、なぜ削減する必要があるのか、なぜこ

のままでは駄目なのかというところを、市役所職員も含め、一人ひとりが完全に理解しないところからの改革は進まないと思うので、まずは意識の共有を図っていききたい。

- ・(市長) この取組は、来年度以降において本格的に検討を進める次期の財政計画とも密接に関係してくるので、その中にきちんと一定の見通しを入れ込んでおくということが必須だと考えている。先ほど言った電気の質をどういうスケジュール感でどのレベルまで変えていけるかということについてもかなり予算との関係が出てくるし、現在ファシリティマネジメントの計画を進行中であるが、これから新たに作る公共施設については、ZEB（ゼブ）と言われる実質排出量ゼロになるような建物も視野に入れていくような、イニシャルは割高になると思うが、それをランニングまで含めて検討していくようなギアチェンジが必要かなという風にも思っている。したがって、そういった財政や今後の施設整備計画等もかなり影響を受けていくことになると思うので、次期財政計画の収支見通しにしっかりと入れていくということを大前提に、頑張って取り組んでいききたいと思う。

3 その他

- 総合政策局長から、令和3年度施策評価表等の作成について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) 施策間連携を確認する項目として3つ設定しており、これらについてはスケジュールがかなりタイトになると思うがご協力をお願いしたい。なお、これを3つに留めているのは、例えばヘルスアップや先ほどの男女共同参画等の全庁横断的な取組は、ほぼ推進会議が設定されているので、その推進会議を単なる書類を共有するだけの場ではなく、しっかりとした協議の場、問題意識を共有し、今後の見通しをしっかりと話し合う場にしてほしいからである。全ての会議を5月までに開催というのは難しいかもしれないが、施策評価の冊子作製のスケジュールを踏まえて、各推進会議の事務局を担っているところは取組を進めていただきたい。推進会議は基本的に私が座長になっているので、どんどんレクを入れてもらったらいいと思う。

ついでなので言うておが、最近、会議のレクを開催直前に設定されるケースが多いが、それでは調整ができない。会議は目的ではなく手段なので、きちんとその推進会議の事務局としての取組の中で会議を設定し、その前段で各推進会議の座長である私にしっかりと政策のレクを入れるようにしてほしい。これは全局共通の課題になっている。来年度の施策評価の取組の中で改善したいと思っているので、皆さんよろしく願います。

また、監査からの指摘事項で、特に施策評価の中での目標設定のあり方とか、そもそも何のためにやっているのかという問題意識が薄くなっている項目について言及されていると思う。そういった点については、本質的な課題をしっかりと踏まえたうえで是正していきたいと思うので、監査や議会等から指摘があった項目については少し意識的な報告ができるようによろしくお願いいたします。

- 総合政策局長から、武庫川女子大学との包括連携協定の締結について説明。
- 総合政策局長から、令和2年度鞍山市青少年芸術交流事業について説明。
- 総合政策局長から、「尼崎工場夜景特別番組」の放送について説明。

以上